



発行：調布市 編集：行政経営部広報課

所在地：〒182-8511 東京都調布市小島町2-35-1 調布市ホームページ http://www.city.chofu.tokyo.jp/

042-481-7111

調布市制施行60周年



©水木プロ

調布市との関わりを振り返ります。水木さんを偲び、これまでの調布市との関わりを振り返ります。

これまで、市の図書館だよりの表紙絵を描き下ろしていただくなど、さまざまな形で市に貢献いただきました。また、鬼太郎が描かれたミニバスや自転車駐車場などのほか、天神通り商店街の「ゲゲゲの鬼太郎」のモニUMENTは、多くの市民に親しまれています。

水木しげるさんは、大正11年に大阪府生まれ、間もなく鳥取県境港市に移り住みました。21歳で徴兵され出征し、激戦地ニューブリテン島のラバウルで爆撃のため左腕を切断。昭和21年に復員後、漫画家としてデビューし、昭和34年に調布市富士見町に移り住みました。

調布市の名誉市民、水木しげるさん（93歳）が平成27年11月30日にご逝去されました。水木しげるさんは、大正11年に大阪府生まれ、間もなく鳥取県境港市に移り住みました。

名誉市民

水木しげるさんを偲んで

故 水木しげる氏（本名：武良 茂）の略歴

Table with 2 columns: Year (年) and Content (内容). Lists major events from 1922 to 2015, including birth, military service, career milestones, and awards.

水木しげるさんを名誉市民に

漫画を通しての調布市への貢献や文化の興隆、さらには多くの市民から愛されていることから、平成20年3月に名誉市民に推薦しました。顕彰式であいさつに立った水木さんは、「こういう席で何か一言といわれても、うれしいと言わざるを得ないし、悲しいとは言えないですな。まあ、ありがとうございますということで、終わりでございます」と話され、場内は笑いの渦に包まれました。



市報ちよふでの対談エピソード

昭和45年の元旦号で、水木さんは、「平和を維持するという大きな目標があることを忘れて人が多いですね。」と平和の大切さを訴えました。また、「どうして自然を守らないんでしょうね。大きな立派な木をどんどん切っていますね。深大寺も十年すれば、どうなるでしょうか。あの周辺だけでも守り抜きたいですねえ。」と自然保護の大切さにも触れられていました。

また、平成22年の元旦号では、水木さんの妻・武良布枝さんと長友市長の新春対談をご紹介します。同席された水木さんは、水木夫妻にとっての調布は？という質問に、「私が来たところから畑でしたけど、今でも畑ですよ。だから昔と変わらぬ。でもビルなんか見ているよりは畑のほうが頭がすっきりするものでした。だから具合はいいです。頭がますますさえてきます。深大寺なんかいいね。」と笑顔で答えておられました。



調布市長 長友貴樹

水木しげるさんの突然の訃報に接し、しばし呆然としてしまいました。長年にわたりお目にかかるうちに、私は水木さん人間界を超越した存在感、たとえて言えば、あたかも不老不死の法を修めると言われる仙人のような面影を拝見していたように思われます。水木さんは、無限に優しい方でした。数年前、心無い人間によって天神通りの鬼太郎像が盗まれるという残念な事件が発生しました。その時も、決して犯行を非難することなく、「盗んだ人に悪いことが無ければいいが」と、逆に犯人を気遣っておられました。その優しさはどこから生まれてきたものでしょうか。もちろん、生涯愛された故郷鳥取県境港における情愛に満ちた暮らしがお人柄に投影されたことは想像に難くありません。それに加えて、戦時中の筆舌に尽くし難い環境が、水木さんのその後の人生に何らかの影響を及ぼしておられたのでしょうか。私には、死線をさまよい、九死に一生を得られた体験が博愛を導き、それによって万人が癒されていたのだらうと思われます。その思いを大切に受け継ぎながら、より「ぬくもり」の感じられるまちを創ってまいります。水木しげるさん、本当に有難うございました。

調布市議会議長 鮎川有祐

水木しげるさんの思い出として真っ先に思い浮かぶのは、平成20年3月の調布市議会の本会議場で執り行われた、調布市名誉市民の顕彰式のことです。市長をはじめ、市の幹部職員とともに私も一議員として出席をしておりました。受章のあいさつに立たれた水木さんは、「名誉市民をもらっても、どってこと……」と本音もポロリ。そのユモア溢れる語り口調に、本会議場は、ドッと笑いの渦となり、一気に和やかな雰囲気になりました。お人柄を偲ばせる出来事として、今でも、強く私の印象に残っております。水木さんの御功績は、今さら申し上げるまでもありませんが、漫画家として一貫して追求されていた「自然への畏怖の念」や「平和を希求する想い」は、「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめとする数々の作品やキャラクターたちによって、今後も世代を超えて引き継がれていくものと確信しております。また、半世紀にわたりお住まいいただいた、この調布市における文化や産業振興への御貢献は、計り知れません。心よりお礼を申し上げます。水木しげるさん、本当に有難うございました。安らかにお休みください。

●水木しげるさんの献花台を設置

平成27年12月27日(日) (予定) まで、文化会館たづくり1階エントランスに、献花台を設置しています。





# 鬼太郎に会えるまち ちょうふ

### 図書館だより「調布を描く」シリーズ

図書館だよりNo.128(昭和63年7月15日発行)~No.156までの7年間に渡って、調布の風景を描き続けていただきました。描き下ろしは終了しましたが、現在でも「鬼太郎」が図書館だよりの表紙を飾り続けています。



### 調布市ミニバスに鬼太郎が描かれる

調布市のミニバスに、鬼太郎が最初に描かれたのは平成15年に運行開始した東路線でした。現在は全ての路線のミニバスに描かれ、「鬼太郎バス」の愛称で親しまれています。



### ゲゲゲの鬼太郎特別住民票の交付

ゲゲゲの鬼太郎が調布市に住んでいることを証明する「ゲゲゲの鬼太郎特別住民票」を作成し、希望者に交付しました。



### 石原小前公園に「鬼太郎公園」の通称誕生

石原小前公園は、水木さんの自宅が近いことから、平成22年4月に「鬼太郎公園」の通称がつけました。小学校に面した入口の看板で鬼太郎が出迎えます。



### ゲゲゲの鬼太郎ナンバープレートの交付

ゲゲゲの鬼太郎キャラクターが入った、原動機付自転車(総排気量50cc以下)のナンバープレートを交付しています。



©水木プロ

## 水木しげるさんと 調布市の主なあゆみ



年 月	内 容
昭和45(1970)年 1月	市報ちょうふ元旦号で新春放談「人間らしく生きたいな」を掲載
昭和63(1988)年 7月	図書館だより「調布を描く」シリーズ始まる(No.128~No.156の7年間)
平成 3(1991)年10月	紫綬褒章受章記念「水木しげる原画展」を開催
平成 8(1996)年10月	天神通り商店会が「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクター・モニュメントを設置
平成14(2002)年 7月	水木しげるさんの原画展を開催。「ゲゲゲの鬼太郎」、「河童の三平」、「悪魔くん」をはじめ、調布にちなんだ作品、妖怪像などを展示
平成15(2003)年 3月	調布市ミニバスに鬼太郎が描かれる
10月	深大寺に「鬼太郎茶屋」がオープン
12月	(株)水木プロダクションが鬼太郎の木版画「妖怪道五十三次 京都 晴姿妖怪道中」を市に寄贈
平成18(2006)年11月	「地域を見守るみんなの目」のポスターとステッカーを作成
平成19(2007)年11月	盗まれた天神通り商店街の「ゲゲゲの鬼太郎」モニュメントが半年で復活
平成20(2008)年 3月	水木しげるさんを名誉市民に(名誉市民顕彰式) 武良布枝さん「ゲゲゲの女房」を出版
平成21(2009)年 4月	調布限定の「ゲゲゲの鬼太郎ポストカード」発売 NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放送決定
5月	市役所に水木さんの「等身大パネル」を設置
8月	市職員「ゲゲゲの鬼太郎」の名刺を使用開始
10月	第4回境港妖怪検定が初めて調布市で開催される
平成22(2010)年 1月	市報ちょうふ元旦号で武良布枝さん単独インタビュー
2月	「名誉市民 水木しげる展」を開催(~3月22日)
3月	ゲゲゲの鬼太郎特別住民票交付開始(88歳誕生日を記念)
3月	知的障害者通所授産施設「ふぁんふぁーれ」(小島町1-22-7)でゲゲゲの「妖怪焼き」発売開始 NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放送開始
4月	石原小前公園(富士見町2-19)に「鬼太郎公園」の通称が誕生
5月	調布市観光案内所「めくもりステーション」がオープン(~平成25年10月31日)
6月	「調布のまちと水木しげるさん」ギャラリー展示を開催(~9月23日)
7月	ゲゲゲの鬼太郎ナンバープレート交付開始
10月	水木しげるさん、武良布枝さん、(株)水木プロダクションに、市から感謝状を贈呈
11月	平成22年度市政功労者「特別功労」で武良布枝さんを表彰
平成23(2011)年 3月	市の諸証明用改ざん防止用紙に「目玉おやじ」を使用
平成24(2012)年 3月	卒寿記念イベント「妖怪の棲むところ」を開催(3月8日で90歳)。市から手形プレートを贈呈
8月	「ゲゲゲの女房」の主題歌である、いきものがかり「ありがとう」が調布駅の列車接近メロディーに
平成26(2014)年 9月	鬼太郎、猫娘、一反もめんが描かれた調布駅北第一自転車駐車がオープン
平成27(2015)年 8月	「水木しげるの戦争と新聞報道展」を開催(~9月13日) 調布駅北第一自転車駐車場前に妖怪ポストを設置

### 「水木しげるの戦争と新聞報道展」を開催

戦後70年を迎えた今年の夏、水木さんの過酷な戦争体験をもとに描いた漫画「総員玉砕せよ!」や「ラバウル戦記」などの作品とともに、当時の新聞記事を展示しました。展示会場に来館された際のNHKの取材で、水木さんは戦争について「奇跡的に生き延びたって感じなんです。あまり思い出したくない。いやなことが多すぎて。戦争は即、死と考えなきゃいかんですよ。」と話されていました。



### 天神通り商店会が「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクター・モニュメントを設置

布多天神社への参道でもある天神通り商店街では、鬼太郎やねずみ男、一反もめんなどのキャラクター・モニュメントに出会えます。



### 深大寺に「鬼太郎茶屋」オープン

平成15年、深大寺の門前に「鬼太郎茶屋」がオープン。お店の内外のいたるところで妖怪たちが待ち受けています。1階には鬼太郎グッズが買えるショップや妖怪喫茶、2階には水木さんの妖怪画などを展示した妖怪ギャラリーがあります。



### 「名誉市民 水木しげる展」を開催

水木さんの歩んできた道や、調布が舞台となった作品、仕事を支えてきた家族とのつながり、平和の大切さなど、さまざまな視点から「調布のまちの水木サン」が紹介されました。展示会場に来場された水木さんは「とてもよかったです。だって水木サンが出てるわけですから」と話し、周囲を笑いに包んでいました。



### NHK連続テレビ小説

#### 「ゲゲゲの女房」放送

水木さんの妻・武良布枝さんの自伝「ゲゲゲの女房」を原案とした昭和の青春物語です。調布を舞台に、好きなことに命をかけて打ち込む夫を支え、おおらかに、そして朗らかに生きていくヒロインとその家族が描かれました(平成22年3月29日~9月25日、全156回)。ドラマのエンディングでは、調布の風景がいくつも紹介され、多くの人々の関心を集まりました。



### 鬼太郎たちが描かれた調布駅北第一自転車駐車がオープン

平成26年9月1日に開設した調布駅北第一自転車駐車の外観には、鬼太郎、猫娘、一反もめんが大きく描かれています。また、平成27年8月、同自転車駐車場前に「妖怪ポスト」が設置されました(協力:上布田商栄会)。

